

平成 16 年 4 月 9 日

日本化学会の活動

社団法人 日本化学会

当会は、会員数 35000 余を数えるわが国で最大級の規模と 125 年の歴史を有する学会であり、その活動は、学术交流から、出版、化学の教育と普及に関する活動、環境安全問題、委託調査等々多岐にわたっております。

以下にその主な活動を概説します。

1. 学术交流に関する活動

毎年 3 月に行われる春季年会は、参加者数約 8500 名、講演数 5000 件を越すわが国最大の学術集会です。また、日米加の化学会に豪州、韓国、ニュージーランドを加えて 5 年に 1 度開催される PacifiChem も参加者数 8000 名と他に類のない規模の国際的な学術集会です。その他にも本部、支部で講演会、ミニシンポジウムなどを多数開催しております。本年 5 月には、世界の 6 大化学会の会長が東京に集まり、世界主要国化学会会長会議を開催される予定です。

2. 出版活動

当会は機関誌 2 誌と英文論文誌 2 誌を発行しております。これら英文誌は、その電子版を科学技術振興機構の J-STAGE 上で公開し非常に広く読まれるようになっております。これは同機構の職員の方々とは当会の担当が密接な連携をすることで達成されたもので、J-STAGE の成功を象徴する例として紹介されています。これら論文誌を世界の一流紙に伍すレベルに上げるために関係諸機関に一層のご支援をお願いしているところです。

これ以外にも、化学関連図書を随時編集しており、昨年は「化学便覧」基礎編と応用編をともに改定しました。

3. 初中等教育と化学の普及活動

別紙に示しますように当会の化学教育協議会において、化学の専門家としての立場から継続的に化学教育の改善と化学の普及に向けた活動を展開してきました。昨年は、わが国で初めて国際化学オリンピックに代表を派遣しました。科学の好きな子供達に夢を与えるこのような活動への国の支援をお願いし、今年度から科学オリンピックの支援に予算を計上していただきました。

4．環境安全問題

科学技術と安全の問題は喫緊の課題であり「社会のための化学」(グリーンケミストリー、化学物質のリスク管理)を中心に活動しております。具体的には、環境安全推進委員会において、教材の作成、講習会の開催等で、啓蒙活動と人材に育成に注力する傍ら、各界と意見交換、国の調査事業への参加などを行っております。

本年4月からの国立大学の独立法人化に関連して、研究施設の労働安全衛生法対応につき、一昨年当会会長から全国国立大学に対応を勧告する書状を送って以来、文部科学省の文教施設部と連携して、具体的な対応策を練ってき、昨年5月には文部科学大臣への必要な資金の確保などを御願ひする要望書を提出しました。

5．その他

上記以外に男女共同参画をめざす活動を文部科学省の協力をいただきながら進めており、大学生、大学院生の就職活動の早期化を是正するための活動などを行う一方、技術者の継続教育の場の提供とそのインセンティブづくりのための資格制度の確立、あるいは、「第3期科学技術基本計画」を意識した「科学技術政策に関する提言」を、日本学術会議を通して総合科学技術会議へ申し入れるなどの活動を行ってきております。